

苧麻採織後の纖維處理の一方法に就いて

大河内秀樹

農林省宮崎農事改良實驗所川南麻類試驗地

南九州地方では一番刈時期が高温多湿な雨期に相當する爲め採取した纖維の乾燥が非常に困難な爲め腐敗せしめ又は色澤を非常に悪くする事が度々ある。それ故之等の對策として行つたものである。

實驗方法

7月16日刈取り清藤式剥皮機にて剥織し、1立坪約5匁の硫黄にて硫黄燻蒸を行ひ、後次の處理を行つた。

試験番號 處理方法

1. 直ちに日乾する。
2. 室内にて竹竿に懸け乾燥する。
3. 處理後直ちに蓆にて包み室内に放置後

1週間目に取り出し日乾する。室内の温度 $22^{\circ}\text{C}\sim 30^{\circ}\text{C}$ 。乾燥を防ぐ爲め(雨天の状態に近づかしめる爲)床面に水を漉へた。

以上の處理後乾燥纖維一定量を秤量し、供試纖維の20倍量の0.5%苛性曹達液を加へ更にラード1%を混じり6時間湯煎後取り出し、水にて洗滌し板上にて手で揉み杵打し粘質を去りよく水洗し乾燥して精練を行つた。この精練を行つた纖維の中央部の單纖維100本の張力をセリメータにて調査を行つた。

試験結果

イ. 觀察

第1法 標準

第2法 4日目より僅かに黴の發生をみ、5日目は相當大部分に發生し、7日目は殆んど全部に發生一部腐敗して切斷し纖維として使用は不能であつた。

第3法 包み方が悪く外氣と接した部分のみ1週間後(取り出した時)一部黴の發生を見たのみで殆んど完全であつた。

ロ. 單纖維張力の調査

第2の方法にて處理したものは腐敗したので除き、第1法、第3法の單纖維張力を調査した。

試験區 張力

1. $39.45\text{g}\pm 1.11$
3. $38.00\text{g}\pm 0.86$

備考 檢力距離 10cm

考 察

1. 硫黄燻蒸後室内より取り出して直ちに蓆に包む程度では張力が幾分弱くなる様であるが殆んど誤差の範囲内で差を認めない。

2. 硫黄燻蒸後蓆に包み保管する事は腐敗を防止する事が出来るので雨天の際に剥皮した時は晴天になるまで(1週間程)箱等に密閉し置き晴天になるのを待つて日乾すればよい。